

●新刊のご案内

現代語訳 童子百物かたり 東北・米沢の怪異譚

吉田綱富=著 水野道子=編 [2019年3月上旬刊]

◎四六判並製 / 312頁 / 本体 2300円
ISBN978-4-909544-03-2 C0039

平易な現代語で甦る 江戸後期の怪異譚

孫や曾孫たちが、そのまた孫や曾孫たちに語ってくれば……。名君・上杉鷹山に仕え、94歳の天寿を全うした米沢藩士・吉田綱富が、その晩年に書き残した『童子百物かたり』。狐やうそき名人が活躍する笑い話、水女や疫病神が登場する怪しい話、酒吞童子をはじめとする有名説話のバリエーションなど、民俗学的にも興味深い、不思議な話の数々。

●主要目次

はじめに

童子百物かたり

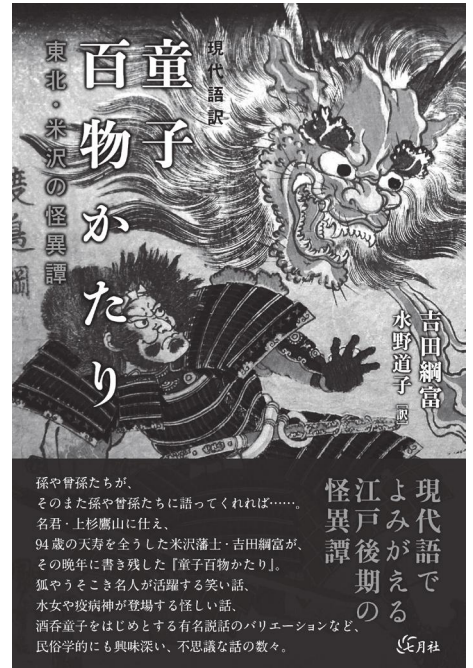
「金花山常慶院、狐の釜のこと」「高玉村瑞龍院、狐のこと」「墓所の釜場へ杭を打って来ること」「隅のば様ということ」「吉田藤助、疫病の神を見ること」「桶屋町籾入六左衛門の疝気のこと」「吉田籐左衛門、闇夜にはた物をしまうこと」「李山村の多蔵、狐にばかされること」「吉田一無、壮年の時大井田伊兵衛と居合稽古のこと」「吉田一無、若い時狐にばかされること」ほか、全50話。

解説

あとがき

●版元より、書店の皆様へ

江戸時代後期の米沢藩士・吉田綱富が孫や曾孫に語って聞かせた話を集成した『童子百物かたり』を、やさしい現代語に訳しました。「百物かたり」ですが、著者の死により後篇50話は書かれなかったため、全部で50話。狐に化かされたり、墓場に肝試しに行き恥をかいたり、コタツをのぞいたら毛むくじゃらの足に目玉がついていたり、美しくも恐ろしい水女に誘惑されたりと、時に可笑しく、時に恐ろしい50話を、江戸時代の語り口で楽しむことができます。



株式会社 七月社

☎182-0015 東京都調布市八雲台 2-24-6 電話 / FAX : 042-455-1385

帳合・番線 注文数 冊	発行：七月社 電話：042-455-1385
	吉田綱富=著 水野道子=訳 現代語訳 童子百物かたり 東北・米沢の怪異譚 四六判並製 / 312頁 / 本体 2300円 / ISBN978-4-909544-03-2 C0039

ご注文は JRC へ / FAX 03-3294-2177

*返品条件付き注文扱い
* JRC 経由ですべての取次への出荷が可能です